

## 第22回

## 地方の若手弁護士に聞く—那覇編—

新進会員活動委員会委員 日高 絢子 (62期)

LIBRA9月号から地方の若手弁護士のインタビュー記事の掲載がスタートした。今月は、その第2弾として沖縄弁護士会の赤嶺朝子弁護士(62期)に那覇での若手弁護士の現状について聞かせていただいた。

— 沖縄県について、簡単に紹介してください。

赤嶺：日本の最西端にある都道府県で、人口は約139万人です。青い海と青い空がとても美しいです。地縁や血縁意識がとても強いのも特徴です。

裁判所は、那覇にある本庁のほか、沖縄支部と名護支部、宮古島にある平良支部の3つの支部があります。

— なぜ沖縄県で弁護士登録をしたのですか。

赤嶺：出身は沖縄県で大学とロースクールは東京でしたので、就職は東京と沖縄で迷いました。那覇で修習をして、仕事の内容が、東京ほど専門化が進んでおらず、色々な仕事ができることを実感し、那覇で仕事をすることに決めました。また、沖縄は、弁護士の人数が東京よりは少なく、委員会活動などの業務外の仕事にも積極的な参加が求められています。この点も那覇で仕事をしようと思った理由の一つです。

— 就職活動は大変でしたか。

赤嶺：私は、就職場所を東京か那覇かで迷っていたので、就職活動のスタートは、遅いほうでしたが、5月に「那覇で就職しよう。」と決めてからは、1ヶ月かからないうちに就職先が決まりました。これは私がもともと沖縄県出身だったということもあるかもしれません。沖縄には、弁護士が220人くらいいますが、女性弁護士は15人くらいと少なく、女性弁護士を求めている事務所があったことも助けになりました。

— 事務所の形態としては個人事務所が多いのですか。

赤嶺：以前はほとんど1人事務所でしたが、最近では2~3人規模の事務所が増加しています。私が働いている事務所は弁護士数が多く、7名で沖縄弁護士会では唯一女性が2名いる事務所です。

— 最近の新人弁護士の採用状況はやはり厳しいのですか。

赤嶺：厳しいですね。小規模の事務所が多いので、なかなか新人弁護士を採用する余裕がないようです。沖縄は弁護士の数が多く、人口に対する弁護士数の割合は全国でトップですので、いわゆる新人弁護士の「即独」や「ノキ弁」という働き方も非常に難しく、実際にも新人弁護士でそのような働き方をしている人はいません。

ちなみに、同期は11人いますが、7人は那覇修習で、残りの3人は沖縄県出身者で、1人は法テラスのスタッフで、沖縄にゆかりのある人がほとんどです。

— 仕事について聞かせてください。どのような事件を受任していますか。

赤嶺：私の勤務する事務所では一般民事・家事・債務整理・刑事など幅広い事件を扱っています。弁護団の仕事もあって、私は今、米軍基地関係の訴訟や環境訴訟の弁護団に入っています。米軍基地の関係の仕事が多いのは、沖縄ならではの特徴です。

— 事件受任のきっかけとしてはどのようなものがありますか。

赤嶺：ほとんどが事務所に来る法律相談がきっかけです。刑事の国選事件は、1ヶ月に1回くらいのペースで回ってきます。

— 九州や東京への出張の仕事はありますか。

赤嶺：私はいくつか弁護団に入っているので、その関係で

東京へ行くなど、出張の仕事は徐々に増えてきています。

また、私は一番最初に受けた刑事事件が沖縄の離島の事件だったので、沖縄県内での離島へ出張の仕事がありました。離島へ出張は飛行機で行きます。

—— 裁判所や警察署への移動の手段は？

赤嶺：徒歩か車です。沖縄には電車はないので、仕事をする上で車の運転をする機会はかなり多いです。

—— 沖縄には独特の方言があるそうですが、実際はどうですか。

赤嶺：修習中に本人訴訟の法廷で裁判官がなかなか方言を理解できずに困っているところを見ることがあります。方言を使われるのは主に高齢者の方が多いですが、私も法律相談をやっていて、たまにわからない言葉が出てきたりすることはあります。

—— 毎日の仕事のスケジュールはどんな感じですか。休日は休めますか。

赤嶺：沖縄はのんびりしているイメージですが、残業もありますし、他の弁護士とあまり変わらないのではないかと思います。朝は9時ころから始まり、帰るのは9時か10時です。弁護団関係の出張があると、平日の仕事がたまってしまう、土日に出勤するというのもめずらしくありません。

—— 休みの日はどのようにリフレッシュしていますか。

赤嶺：やはり海に行くことが多いです。実際に海に入らなくても海辺でのんびりしているだけで、ずいぶん休まります。あと、ドライブも好きなのでドライブでストレス解消をしています。

—— 業務外の委員会活動はどうですか。

赤嶺：62期は1人1委員会になっていて、私は、国際特



赤嶺弁護士(左)と聞き手の日高委員

赤嶺朝子 弁護士 (新 62 期)

平成21年弁護士登録 (沖縄弁護士会)  
沖縄合同法律事務所に勤務

別委員会に配属されています。台北の弁護士会との交流や米軍基地内の法曹関係者との交流など、委員会の中でも特殊な委員会です。

—— 同期同士の交流は活発ですか。

赤嶺：3月に沖縄弁護士会で憲法劇をやったので、1月から3月はその練習などで、頻りに同期と顔を合わせていました。飲み会も幹事交代制で1ヶ月に1回のペースでやれるといいねという話にはなりましたが、なかなかスケジュールを合わせるのが大変です。

—— 沖縄弁護士会に登録していて、良かったと思いませんか。

赤嶺：良かったと思います。色々な事件を経験できることが何より魅力ですし、環境も良いので、ちょっとした時間で気分転換をすることができます。

—— ありがとうございました。最後に10年後の目標を教えてください。

赤嶺：子どももいてきちんと仕事もしていきたいですね。何事にもチャレンジし続けたいです。